



毎年パワーアップ「山王防災バンド」。

デアをもって参加機会をひねり出す鈴木会長。どこかのチャンネルで活動に入ってきてくれればと、ゴルフ大会やカラオケ、飲み会も立派に行事化しています。

「防災も防犯も根っこはひとつ。ご近所で知り合いができ、挨拶を交わせる町が安心安全な町の基本」と、その趣旨はとても明快です。

区内各地域で行う、正月の消防出初め式、夏の防災技能訓練にも、この町では共助の要となる住民の絆づくりを仕掛けます。

出初め式は、もちつき大会、モツ煮込み鍋と参加型イベントを併せ、老若男女、誰もが参加しやすい楽しいものに。夏の防災訓練は、「防災子どもまつり」に化粧替え。

訓練も祭りにすれば人が集まる、子どもを集めれば若い父母が来るとの目論みです。公園でテント張り、火災時の煙体験、アルファ米をアレンジした防災食作りで炊き出し訓練と試食会。防災バンドの歌うオリジナル防災ソングは、バラード「坂の上の広場で」、演歌「避難所の夜」、フォーク「転ばぬ先の三・四丁目」といった具合です。

●弱者救済の視点もしっかり自分の町は自分たちでつくる

東京は地域密着型人口より移動型や新住民が多い土地柄です。ところが自治会活動は会費・募金集めこそ輪番制にしても、役員人事、お金の使い方、企画運営などは一部の人々に固定され、一般的に不透明になりがちです。「開かれた自治会運営、集めた会費はアグレッシブに有効活用すべきもの」と言う鈴木会長も、14、15年汗を流していく中で容認されていったのだそうです。

災害時要援護者の登録は百人を超え、班全体でウオッチし、災害時には班長と班ごとに任命された福祉委員が救助の要になります。また災害時に危険にさらされやすい母と幼い子のために皆で絵本（おすすめ本で紹介）をつくりました。絵本は紙芝居に、演劇にと進化を続け、保育園、幼稚園を

巡って防災意識の向上に一役買っています。  
11月25日（日）午後2時から5時間、大田区文化の森で楽しく共助の大切さを伝える「我がまち防災フェスティバル」を開催します。  
詳しくは山王三・四丁目自治会ホームページをご覧ください。



Z社 1,200円

パステル  
おすすめ本

ガタガタ村と大ナマズ

文：山王三・四丁目自治会 絵：寺田順三

街の本屋さんには大人のための防災マニュアル本が氾濫しているも、子どもが手にするものは意外と少ないようです。

地域の幼い子どもの命を、首都直下型地震から守りたい。そんな住民たちの思いが、絵本になりました。

作者は大田区山王三・四丁目自治会有志からなる自主防衛組織の人たち。洗練された色使いの絵は阪神・淡路大震災を経験した大阪在住で美大講師の寺田さんによるもの。

災害弱者の子どもの生存の鍵は「日頃の親の備えにある」ことを知って行動を起こしてほしい。大地震がいつ起きても不思議でないこの国で生き抜くために、親子で語り合うきっかけになってほしい。

そんな願いで町の仲間が多く参加して作った絵本です。

物語は、動物たちが仲良く暮らす村に「大ナマズどんがやってくる」という村長さんの一言で始まります。キツネを除く動物たちはそれぞれに備えをしましたが、大ナマズはやってきません。それを見たキツネは大笑い。しかし、動物たちが忘れた頃、突然、大ナマズはやってきたのです。「ガタガタ村」という村の名前にもわけがあったのです。

万全の準備も自然の威力の前では役立たず。人々の結束が命を救うという話には身をつまされます。

この絵本売上の一部は、東日本大震災の震災孤児に「はたち基金」を通して寄付されます。